



六丁目にお住まいの
丸山 圭祐さん・夏希さんの

かす き
長男 **和希** くん (1歳3か月)

上手に歩けるようになった和希くん、
名前を呼ぶと「ハイ」と手をあげて
ママのところに走ってくるよ

みなさんのお宅のアイドルの写真を募集しております。市役所総務課へどしどしお寄せください。



下田人の 息づかい

Vol.17

下田の人たちが昔から大切に
してきたもの。

そして、
これから新たに大切にして
いきたいものが

「下田まち遺産」です。



白濱神社火達祭と御幣流祭

～始まりと終わりの合図～

白濱神社の祭典は神社に伝
わる神話(三宅記)が基になっ
ていると言われています。

その神話とは、祭神の三嶋
大明神が、三宅島から黒潮に
乗って伊豆半島にたどり着き、
富士山の神様の許しを得て白
浜に神社を、沖に10の島を造
り、その島々に后を住ませ、
子供を儲けたというものです。
8月末に発行した下田まち
遺産手帖の取材で白濱神社の

宮司にお会いし、時を忘れて
しまうほど良いお話を聞かせ
ていただきました。
今回、手帖で詳しく紹介し
きれなかった二つのお祭りに
ついて紹介します。

始まりを告げる火達祭



島に住む后や子供達に祭典
の始まりを知らせるため、合
図の火を焚く儀式です。

過去に行われた調査の結果、
儀式に使う土器などが発見さ
れ、大昔は神社の近辺にある
火達山の山頂で行われたと推
定されています。

現在は白浜大浜海岸で行わ
れており、荘厳な雰囲気の中、
松明で薪に火が灯され、宵闇
が照らされていきます。

終わりを告げる御幣流祭

火達祭とは逆に祭典が終了
したことを知らせる儀式です。
人の背丈ほどに切られた青
竹の先端に和紙を折って取り
付けた「御幣」を神社裏の大
明神岩と呼ばれるところから
島々に向けて流します。
昔からこのときに御幣西と
いう西風が吹き、御幣を運ぶ
と言われ、宮司の知るかぎり、
御幣西に吹かれて沖まで一直
線に御幣が流れたことが、10
回ほどあったそうです。



神話の時代から続くこの下
田まち遺産を大切にしていき
たいと思います。

問合せ先 建設課都市住宅係

☎ 22219



「広報しもだ」は再生紙を使用しています

伊豆縦貫自動車道を早期完成しよう!!

「伊豆縦貫自動車道ロゴマーク」を利用して、伊豆縦貫自動車道の整備促進と活性化を県内外にPRしま
しょう!! ご利用方法については、以下の市ホームページをご覧ください。

■ 下田市ホームページ <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

